

邪魔者は、  
去れ

弥重  
早希子

○あらすじ

小学校の教師をしている麻生美奈子(29)は、結婚も控え平凡ながら幸せな毎日を送っていた。そんな折、弟の卓人(25)が、ボランティア活動目的で渡航したシリアで過激派組織に拘束されたことを知る。卓人と言え、やんちゃだったのが、ボランティアなんて全く無縁だと思っていた。突然の知らせに動揺する美奈子や母・妙子(60)。卓人は一躍、注目を集めてしまう。

無事に帰国することができた卓人だったが、帰国後の会見で卓人があくびをしてしまったこと、また会見で無言を貫いたことを契機に、世間は卓人をバッシングし始めた。ネットに拡散する情報は、卓人のことだけでなく、家族・美奈子のことにも及んだ。連日メディアに追いかけて回される日々がスタートしてしまふ。

そんな中、母・妙子に異変が現れ始める。妙子は一見突然大きな事件に巻き込まれ、うろたえている普通の母に見えた。しかし、母はマスコミが自宅に来る度、派手な化粧をするようになる。自分が“出演”しているテレビ番組の録画に夢中で、見入る日々。事件の直前に、白内障を患い、手術をしたが、帰り道に視界が悪くなり立ち往生。老いていく自分、平凡な毎日、そんなところへ、急に舞い込んで来たバッシングという名の「光」。妙子は、カメラのフラッシュにやられた。

平凡な毎日なんて、もうごめん。それならば、叩かれていたい。

一方で、教師である美奈子は、事件の影響をもちに受ける。保護者からのクレームが募り、休職処分。婚約者との関係にも亀裂が入る。

一刻も早く元に戻りたい――。美奈子は様々な方法で奮闘するが、それを尻目に、妙子は眩く。

「あんた、もうシリア行かないの？ 行かないと皆忘れちゃうじゃない」

狂っていく母。

激しさを増すバッシング。

沈黙を続ける当事者、卓人。

美奈子は、元の生活を取り戻すことができずのか――。

平凡な日常と、突然降って来た非日常・悲劇の間で揺れる、ある家族の物語。

(807字)

## 【登場人物】

麻生美奈子（29） …… 小学校の教師

麻生妙子（60） …… 美奈子の母

麻生卓人（25） …… 美奈子の弟

野中美穂（9） …… 美奈子の生徒

羽田瑠衣（24） …… 風俗嬢

広瀬光輝（31） …… 美奈子の婚約者

山田一平（31） …… ウェブライター

山本沙也（9） …… 美奈子の生徒

松永昭平（51） …… 美奈子の上司、教頭

馬田真吾（50） …… アナウンサー

山本由美（34） …… 沙也の母

【参考資料】

『I S の人質…13ヶ月の拘束、そして生還』  
プク・ダムスゴ―著  
光文社

## ○桂木病院・廊下（手術室（昼））

看護師に連れられ歩く麻生妙子（60）。

看護師「やだ、黒豆も自分で？」

妙子「あら、やんない？」

看護師「全部、注文。7人前で5万円」

妙子「はー：：時代は変わったわ」

看護師「麻生さん、娘1人？」

妙子「ああ、あと息子と」

看護師「うちは5人。大して喜ばないくせに、

なけりやないで、実家なのに、しっくり来

ない、とか言うからさ」

妙子「（笑い）でも5万？」

看護師「駅前のスーパ―はもうちよい安い」

妙子「5万ね」

と笑い合い。

手術室へ、入って行く。

## ○同・手術室（昼）

手術台上に寝かされた妙子。

医師が、目薬を妙子にさす。

妙子の上の機械、グツと目に寄る。

モニターに妙子の目が映し出される。

妙子「（不安気で）……」

医師「はい。じゃ、リラックスして」

妙子「ああ、はい」

モニターを見ながら、白内障の手術をする医師。

映し出される妙子の目。

濁りが取り除かれ。

薬が注入され。

眼球は、その都度、色を変えていく。

## ○桂木小学校・校庭（別日・朝）

歩いてくる教師・樋田（40）。

校庭の隅へ。

と、ポツポツと穴がある。

樋田「(訝しげに見下ろし)……」

○同・保健室(朝)

膝小僧にかすり傷ある山本沙也(9)。  
むくれた顔で半べそ、かく。

養護教諭「消毒しとこつか。ね？」

と沙也の頭をなでた。

その傍ら、沙也の母・山本由美(34)が、  
教頭・松永昭平(51)に詰め寄る。

由美「どういうことか、説明してください  
て言ってるんです！」

松永「本つ当に申し訳ございません！」  
と、生徒らに連れられ入ってくる麻生美

奈子(29)。

半べそかく沙也を見て、

美奈子「沙也ちゃん？ 大丈夫？」

沙也「(ブスッと泣き)……」

由美「麻生先生、どういうことですか？」

美奈子「すみません、あの……」

生徒1「落とし穴だよ、落とし穴！」

美奈子「え？」

生徒2「そう、いっぱい。花壇のところ。だ

からね、先生、沙也ちゃん悪くないんだよ」

由美「どうせ、あの子なんでしょ？ 問題起

こす前に、なんとかしててくださいって、私、

言いましたよね？」

美奈子「(解せず)いや、あの……」

松永「ああああ、あの、今、私の方から。麻

生先生、ちよつと！」

と美奈子を睨み、パーテーション奥へ。

美奈子「(解せず)あの……」

松永「また野中美穂」

美奈子「え？」

松永「落とし穴、掘ってたの。ちゃんと見て

てくださいよ。あなた、担任でしょ？」

美奈子「……」

○同・3年1組・教室(朝)

窓際の水槽に亀。

をじっと見ている野中美穂(9)。

教師1の首の動きに合わせ、口をぱくつかす。  
教師1の声「転校、2回目なんでしたっけ？」

○同・校庭(朝)

樋田「スコップで穴を埋める樋田と教師1。

樋田「3回目。春に来るでしょ？ 積み重なったもんが、ちようど今頃。冬休み前に爆発しちゃって。入学した時からずっとそうらしいよ」

教師1「クラスで馴染めなくて。で、ムカつく奴に落とし穴掘ったってことっすよね？」

樋田「前の学校でも似たようなことあったらしいよ？」

と雑に足で穴を埋める。

○同・3年1組・教室(朝)

美穂と向き合っている美奈子。

美奈子「美穂ちゃん、最近、学校どう？」

美穂「ふつう」

美奈子「沙也ちゃんたちは？ 仲良くできてる？」

美穂「……」

美奈子「今日、沙也ちゃん、怪我しちゃったの、知ってるよね？ 花壇のところの穴に

つまずいちゃったって」

美穂「……」

美奈子「(躊躇う)なにか知ってることない？」

美穂「(遮り)なおる？」

美奈子「ん？」

美穂「沙也ちゃんのケガ」

美奈子「うん。大丈夫。なおるよ」

と、美穂、なんだかしよんぼり下を向く。

美奈子「分かった。もういいよ」

美穂「……」

美奈子「話したいことがあったら、いつでも」



言っ

と微笑む。

が、美穂は、しょんぼりしたままだ。

美奈子「……」

○桂木病院・妙子の病室（昼）

退院仕度をしている妙子。

右目に眼帯をつけている。

年相応、平凡な身なりの女だ。

小型テレビからポップな音楽。

馬田真吾（50）司会の『イマウマ！』が始まる。

妙子、ボリュウムをあげテレビに見入る。

馬田「それでは今日も参りましょう。この人に聞けば、今が分かる！」

と、旬のゲストを迎えトークのコーナー。

妙子、洋服畳む手、止まり、馬田に夢中。

妙子「（笑って見て）……」

○桂木小学校・教頭室（昼）

険しい顔の松永と対峙する美奈子。

松永「なんでちゃんと謝らせなかったの！」

美奈子「……。ちよつと、一方的に、責め過

ぎじゃないかなって、思うというか……」

松永「何回目よ？ あの子のことで揉めるの」

美奈子「そう、かもしれないですけど……」

松永「1人にかまってたら、他が回らない。

悪いことは悪い。実際、怪我してるんだか

ら。違います？」

美奈子「（釈然とせず）でも……」

松永「なに？」

美奈子「（不服だが）いえ……すみません」

○同・廊下（昼）

職員室から出てくる美奈子。

と廊下の向こう。

美穂と沙也、少女たちの姿。

沙也「沙也、美穂を睨み。」  
 沙也「傷痕、残ったらあんたのせいだから」  
 と帰って行く。

少女たち、笑いながら、美穂を押す。  
 美穂、じつと耐え。

走って行く。

美奈子「(見て)……」

○桂木駅(夕)

来る妙子。眼帯はつけていない。

テンポよく改札を通る人。

に続き、妙子もテンポ良く。

が、立ち止まり、目をきつく閉じた。

ドン、と人がぶつかる。

妙子「ああ、ごめんなさい……」

と目を開け、歩き出そうと。

が、視界がぼやけていて……

○居酒屋『ます田』・店内(夜)

一席に美奈子と広瀬光輝(31)。

刺身をツマミに飲んでいる。

美奈子「結局また全部、美穂ちゃんが悪いみ

たいになつてさ」

光輝「ふーん。あ、サーモン食べていいよ」

美奈子「でも、美穂ちゃんには美穂ちゃんの

言い分があるはずでしょ。一方的に、悪者

扱いって。そんなのおかしいよ」

と憤り、ぐいっとビールを飲む美奈子。

そんな美奈子を見て、微笑む光輝。

美奈子「(見て)笑うことかな？」

光輝「いや、良い先生だな、と思つてさ」

美奈子「そういうんじゃない……」

光輝「あ、式場だけどさ。やっぱこないだの

教会がいいよね？」

美奈子「え？ ああ、うん」

光輝「(見て)なに？」

美奈子「え？ ううん、教会がいいかな」

光輝「(微笑み)色々考え過ぎだつて」

美奈子「サ―モン、少しもどかしいが、微笑み、

美奈子「サ―モンの刺身を食べた。」

と、美奈子の携帯が鳴る。

美奈子「ちよつとごめん」  
と言いつつ、電話に出る。

○桂木病院・廊下（夜）

走ってくる美奈子と光輝。

医者の声「3日前に白内障の手術をされて今日退院だったんですが、帰りの駅で倒れられてしまつて」  
と、ぼつんと廊下に座っている妙子。

○同・診察室（夜）

医者の説明を受ける美奈子。

医者「迎えはなしで、1人で帰宅されるということで、経過も順調だったので、問題ないと思つたんですが……」

美奈子「あの、白内障って？」

医者「（淡々と）夏頃から通院されてて。年末

には手術をってそういう話だったので」  
美奈子「……」

○麻生家・表（夜）

平凡な一軒家。

○同・居間／＼台所（夜）

台所、お茶の用意をする妙子。

妙子「（ケロツと）大した手術じゃないって医者

者が言うからさ」  
美奈子「なんで相談してくれなかったのよ。

いいよ、座つてて」  
妙子「と妙子に代わり、妙子を居間へ。

妙子「あ、あんたお茶っ葉そつちダメよ？」  
腐

美奈子「腐ってんなら捨てなよ」  
 妙子「あんたと私はいいけど。光輝さんは」  
 光輝「あ、いや、大丈夫ですよ」

と、妙子、目をきつく閉じる。

美奈子「（見て）なに、痛いのか？」

妙子「なんだか慣れないのよ。自分の目じや

ないみたいで」

光輝「でも、こないだうちのおばさんも白内

障で。日帰りだったらしいんですけど。やつ

ぱ、帰り怖かったって」

美奈子「次病院いつ？一緒に行くよ」

妙子「：：。あんた知ってた？網膜剥離の

患者さんってね、手術した後、ずっと下向

いてなきやダメなのよ？」

美奈子「は？」

妙子「入院してた部屋がさ、もう網膜剥離だ

らけだったんだけどさ、トイレ行く時も、

ご飯の時もずっとこうやってね」

と下を向いたまま、茶を飲んでみる。

と、ちよつとこぼれた。

美奈子「（笑い）ちよつともう、汚いなー」

と、玄関チャイムが鳴る。

美奈子「ちやんと拭いてよ？　はーい」

と外へ。

○玄関のドアを開けた美奈子

と、ケバい女・羽田瑠衣（24）と、スー  
 ツを着た野上（40）の姿。

美奈子「（キョトンと見て）……？」

瑠衣「あ、こんばんは」

野上「麻生卓人さんのお宅ですよね？」

と、野上、美奈子に名刺を差し出す。

美奈子「（見て）……外務省？」

野上「お話よろしいですか？」

美奈子「（解せず）え？　いや、あの……」

野上「麻生卓人さんが、シリアで過激派組織

に拘束されました」

美奈子「は？」

○パソコン画面・卓人の拘束映像

囚人服を着せられた麻生卓人（25）。  
頭は丸刈り。  
両脇から顔を隠した男に銃を向けられ、  
跪いている。

○パソコン画面を愕然と見る美奈子

麻生家・居間。

妙子も顔をしかめ、見る。

野上「最後に弟さんと話したのは？」

美奈子「（我に返り）……」

光輝「卓人くん、名古屋にいたんだって……」

美奈子「は？」

野上「お勤めだった山上レンタカー。1年前  
に退職されてます。半年前から、『STP』  
の本部がある名古屋にお住まいでした」

美奈子「S……？」

野上「所属されてたボランテニア団体です」

美奈子「（思わず笑い）ボランテニアって……」

野上「（笑わず）難民キャンプでの支援目的

で今月1日からシリアへ。過去にブルキナ

ファソ、カンボジアにも渡航されています」

美奈子「（ありえない）……」

野上「こちらの方のお名前が、緊急連絡先に」

と瑠衣を指す。

一斉に瑠衣を見る一同。

瑠衣「え？ いや、そんな見られてもさ……」

美奈子「（見て）彼女、とかですか？」

瑠衣「え、あのー、彼女ってか……ウチ、ま

あそういう店で働いてて。タクちゃんは、

なんつーか、その客？」

とバッグから名刺を取り出す。

安っぽい名刺『いちご学園 いるい』。

美奈子「……」

瑠衣「だからウチもよく知らないんだって。

いきなりガイムショウとか訳分かんないと

こから電話かかってきてさ。いつちやって

る客かと思っブチってたら家まで来るし」

美奈子「……」  
 瑠衣「でもそれ。見せられて。あ、タクちゃ  
 んだって……」

美奈子「(愕然とし)……」  
 パソコン画面を見る美奈子。  
 卓人の拘束映像。

○が流れるニュース映像

卓人拘束映像に重なり。  
 『邦人男性 シリアに拘束』テロップ。  
 アナウンサー「外務省の発表によりますと、  
 拘束されたと見られるのは、東京都×××  
 の麻生卓人さん、25歳。犯人グループが、  
 インターネットの動画サイトに、映像を公  
 開したことで事件が発覚し……」

○麻生家・表(数日後・昼)

報道陣が押し寄せている。  
 記者2「麻生さん、一言、お話しできますか？」  
 と麻生家にマイクを向ける。

○同・居間・台所(昼)

放心状態で座っている妙子。  
 電話をしている美奈子。

美奈子「……はい、よろしくお願ひします」  
 と、お茶を持ってくる光輝。

光輝「どう？」

美奈子「まだなんも分かんないって」

光輝「(ポツリ)なんか……なんでだろ」

美奈子「え？」

光輝「だって意味不明でしょ。卓人くんが、  
 シリアってさ」

美奈子「……」

と、妙子がきつく目を閉じる。

美奈子「(見て)大丈夫？」

妙子「え？ あーあの、目薬、しなきゃ」  
 とふらふらと出て行く。

美奈子「……」  
 記者の声「麻生さん、一言、お話伺えますか？」  
 美奈子「（もどかしく）……」

○同・廊下へ玄関（昼）

ふらふらと自室に向かう妙子。  
 が、外の喧噪が気になる。  
 妙子「……」  
 と玄関へふらふら近づき、

○ドアを開けてみた

と、凄まじいフラッシュ！  
 妙子「！」

と思わず目を閉じた。

記者1「麻生さん！一言いただけますか？」  
 妙子「（目を開け）……？」

パシャッ、パシャッ！  
 フラッシュの光。  
 をしつかり見る妙子。  
 と、瞳孔が縮み、今、光を捉えた。

妙子「（多幸感を感じ）……」  
 動く口、人、フラッシュの光。

はつきり、見える、妙子。  
 美奈子「おかあさん……！」

と、美奈子来て、妙子を引っ張る。

が、妙子は、フラッシュ、ポーツと見る。  
 記者1「一言、ご状況をお伺いできますか！？」  
 美奈子「（圧倒され強ばる）……」

妙子は未だぼーっとしている。  
 そんな美奈子と妙子の瞬間、撮るカメラ。

○タイトル『邪魔者は、去れ』

○ラブホテル・表（数日後・早朝）

から出てくる瑠衣。  
 大きなあくび一発。  
 鼻歌まじり、歩き出す。

○コンビニ・店内（早朝）

買い物をしている瑠衣。

と、新聞コーナー。

首を傾け、見出し、読む。

『麻生卓人さん 音信途絶える』の文字。

直撃を受けた美奈子と妙子の写真。

瑠衣「（見て）……」

と、電話が鳴る。

○麻生家・表（朝）

マスコミがチラホラいる。

中、来る瑠衣。

マスコミを軽快にかわし、中へ。

○同・居間（朝）

美奈子に続き、入ってくる瑠衣。

美奈子「ごめんね、無理言って」

瑠衣「呼ばれたら行くのがウチっすから。で

も、なんかすごいことなっちゃってんね」

美奈子「……お母さん、ちよつと心配だから」

瑠衣「でも先生は学校行かなきゃだしね。い

いよ、任せて」

美奈子「……あの、卓人」

瑠衣「え？」

美奈子「なんか言っただけじゃなかった？ ボランテ

ィアのこととか」

瑠衣「うーん、いやウチもあれから考えたん

だよ？ けどないなく、なんか思い当たる

あれが」

美奈子「……」

瑠衣「ちよつとだけ寝ちやうかも」

美奈子「うん。本当、ごめんね」

瑠衣「大丈夫だよ」

美奈子「え？」

瑠衣「タクちゃん。きつと帰ってくる」

美奈子「（微笑むが）……うん」



○桂木小学校・3年1組・教室（昼）

美奈子「じゃ、このかけ算、分る人？」  
美奈子「はいはい」と手を挙げる生徒たち。

○同・職員室（昼）

教師1「新聞を見ている教師1。」

教師2「あれ、前いた、ジャーナリストだか

なんかさ。あれとは、また別なの？」

松永「ええ、電話に出ている松永。」

教師3「（見て）もう5件目らしいっすよ」

教師2「ニュース、ずっとやってたしね……」

冷静じゃない人に、授業なんかやらせて大丈夫なのかって」

と新聞を脇に置く。  
美奈子の写真がデカデカ掲載されている。

○麻生家・居間（昼）

瑠衣が化粧をしている。

入ってくる妙子。  
ギョッと瑠衣を見る。

妙子「あの……」

と、瑠衣、窓外を見る。  
マスコミの喧噪。

瑠衣「なんか、心配だからって。先生に呼ば

れた」  
妙子「……」

瑠衣「ビューラーで、睫毛をあげる。」

妙子「ごめんね、わざわざ」  
とビューラーで睫毛をあげる。  
のをじーっと見ている妙子。

瑠衣「（気付き）え、めっちゃ見んじゃん」と軽く笑う。

妙子「ごめんなさい。それどうなって……」

と単純な興味から見る

瑠衣「普通に、こ、やんじゃん。で、あがん

じゃん。みたいなの？」

妙子「……痛くないの？」

瑠衣「あ、やってみる？」

妙子「え？ いやいや、いい、いい」

瑠衣「いいじゃん、気分転換」

妙子、目をギュッと閉じる。

瑠衣「あ、開けて？ つか閉じたらできない」

妙子「（目を開け）……」

瑠衣、妙子の睫毛をビューラーで上げる。

瑠衣「どや」

と鏡を差し出す。

妙子「（見て）あら、すごい……」

瑠衣「（笑い）遊んでいい？」

と妙子に化粧をしていく。

が、ふと、手が止まる。

妙子の目から涙がこぼれていた。

瑠衣、その涙を指で撫でた。

妙子「ごめんなさいね……」

瑠衣「目が似てる。タクちゃんに」

と妙子に微笑み、口紅を取り、塗る。

瑠衣「タクちゃんはね。案外、こういうケバ

いのが好きだって、あたしが勝手に思って

るだけかもだけど」

妙子「可愛い子が好きだった」

瑠衣「あー、間違いない」

と小さく笑い合う。

瑠衣「なんであんなところ行ったんだろ

と、窓外でフラッシュが光る。

妙子「（見て）……！」

記者1の声「麻生さん、一言お話し伺えますか？」

妙子「（見て）……」

○桂木小学校・トイレ（夕）

顔を洗っている美奈子。

鏡を見て、フツと息を整え。  
出て行く。

○街路（夕）

歩いている美奈子。  
と、大型モニタ―に、ニュース映像。  
卓人拘束映像が映る。

美奈子「（見て）……」

妙子の声「イヤになり、踵返そうと。  
と、向き直り画面を見る美奈子。」

と、麻生家前。

マスコミ取材に応じる妙子。

その顔、どぎつい化粧。

妙子「どうか、皆さんのお力で、息子を助け

てください……」

美奈子「おかあさん……！？」

と、美奈子の電話が鳴る。

が、美奈子は、画面の妙子に見入る。

不自然なほど巻いた睫毛。

真っ赤な口紅。

と、通行人も、妙子を見て失笑している。

明らかにその化粧、似合っていないのだ。

美奈子「（不気味に見て）……」

と、電話が鳴り続けている。

ことに気付き、美奈子、取る。

美奈子「（電話）おかあさん！？　なに勝手に

テレビなんか……」

妙子の声「卓人！　解放されたって！」

○東京国際空港・全景（数日後・夕）

飛行機が離着陸する。

○同・到着ゲート（昼）

マスコミが集まる中。

卓人を待つ美奈子と妙子。

妙子、化粧気はない。

と、バシヤつとフラツシュが光る。

妙子「(ドキっとして)……」

記者1「お母さん、今のお気持ちを一言！」

妙子「(緊張し)ああ……、あの、嬉しいです」

とはにかむ。

記者3「あ、来たぞ！」

と、声の方を見る美奈子。

妙子「卓人！！！」

と走って行く。

と、向こうから歩いてくる卓人。

美奈子「(安堵し微笑み)……」

妙子、卓人に抱きついた。

バシヤバシヤ、フラツシュ、光る。

妙子「ほんつと、あんたって子は……」

と嗚咽を漏らし、泣き崩れた。

卓人「……ごめん」

と顔を上げ、美奈子と目が合う。

美奈子「もう……」

と微笑んでみせる。

が、卓人、生気のない目。

ついに、目を逸らした。

美奈子「……」

と、マスコミが押し寄せる。

記者1「麻生さん！一言お願いします！」

卓人「……色々。心配とか。迷惑とか。」

本当に、すみませんでした」

記者2「麻生さん！今回、渡航された理由

を教えてください。なぜ、今、このタイミ

ングで、シリアに渡航されたんですか？」

美奈子「……」

と答えを待ち、卓人を見る。

卓人「……本当に、すみませんでした」

と頭を下げ。顔をあげる。

と、ふつとあくびが漏れた。

○スポーツクラブ・サウナ(夕)

小型テレビから前段の空港での様子。  
おばちゃん3人組がボーツとテレビ見る。

おばちゃん1「いや、この子あくびしよるで？」  
 おばちゃん2「ふわーあ、とちやうで？ な？」  
 おばちゃん3「これ親かいな？ 笑い過ぎと  
 ちやうのん？」

とテレビ画面。

妙子、卓人、美奈子が映る。

妙子は、カメラ視線。

唇を舐め、ツヤを出そうとしてるらしい。

ニコニコ笑う妙子。

無表情の卓人。

困惑している美奈子が映し出される。

○ネットの反応のモニタージュ（夜）

首都高を走る車。

卓人が窓外を見ている。

東京のネオンの光をボーツと見る。

卓人「（見て）……」

卓人の顔に重なり。

『麻生卓人 あくび』と検索される画面。

『ウーマナイザー麻生』とアップされる

泥酔状態、女とキスする卓人の写真。

『シリアの人は質はしゃべらん』

『おかん、唇ぺろり』『お姉さん美人説』  
 など、卓人の顔を埋め尽くす。

○麻生家・居間（数日後・朝）

テレビからニュース。

あくびをする卓人の映像、映る。

『麻生卓人さん 広がる自己責任論』。

激論を飛ばすコメンテーターの増井（4

0）と東尾（35）

東尾「だからね、まだ何も分からないうちか  
 ら、自己責任、自己責任って言うのはもう  
 やめましようよ、って話なんですよ」

増井「そのための会見だって言ってるんです」  
 アウンサー「麻生さんは今、メディアカルチ  
 ェックを受けてることと、その後、恐  
 らく会見があるのではないかと」

増井「ちゃんとは何があったか。説明責任は当然あるでしょ」

と激論が続く。

美奈子の見ていたのは美奈子。

美奈子「……」

○同・廊下（朝）

歩いている美奈子。

と、前から険しい顔の松永。

松永「麻生先生……」

美奈子「大丈夫です。弁護士さんも決まった

し……退院したら、会見して……」

松永「保護者からもう何件も問い合わせ来て

るんだよ」

美奈子「……。ちゃんと元通りにしますから」

松永「（ポロっと）なんであくびなんかしたの

よ」

と頭わしゃわしゃ搔き、歩いて行く松永。

美奈子「……」

○東京病院・表（夜）

来る美奈子。

と、待ち構えていたマスコミに囲まれる。

記者1「麻生さん！ 弟さんと話はされましたか？」

美奈子「……」

美奈子「……。本当に、ご迷惑をおかけしてすみません」

記者2「あくびの理由って分かりますか？」

など口々に質問が飛ぶ。

美奈子、その状況にしどろもどろ。

と、来た弁護士・井田（40）。

井田「すみませんが病院ですのので」

とスマートフォンに美奈子の中へ。

○同・卓人の病室（夜）

ベッドの上、卓人。

傍らに井田。

卓人と井田の様子を見守る美奈子。  
妙子は、週刊誌を見ている。

井田「なぜ今回シリアに行ったんですか？」

美奈子「(卓人を見て)……」

卓人「……。正しいことが、したくて」

井田「(冷たく)正しいことってなんですか？」

答えてくださいーい」

美奈子「(見て)……」

井田「こういう質問が来るんです。今、詰ま

ったところは、後で全部考えますから」

美奈子「……」

井田「拘束された当日。どうして、1人、別

行動なさったんですか？」

卓人「キャンプで仲良くなった子供が、朝日

を見に行こうって言ったので……」

と打合せを続ける井田と卓人。

美奈子、その様子を見守っている。

妙子は週刊誌に夢中。

『あくび帰国 麻生卓人の素顔！』

と銘打った記事。

あくびをする卓人と抱擁する妙子の写真。

妙子「(ひとりごと) 太って見えるのね……」

○東京会議場・会議室(別日・昼)

『麻生卓人 帰国記者会見』の表示。  
大勢のマスコミが集まっている。

○同・舞台袖(昼)

卓人と井田、美奈子がいる。

卓人、無表情。

美奈子「(見て)……大丈夫？」

卓人「え？ ああ。うん。母さんは？」

美奈子「トイレ」

井田「ちよつと失礼」

と卓人のシャツを整える。

美奈子「……。正直に、ちゃんと。自分の言

卓人「……」

井田「自分の言葉という名の原稿通りに」  
 卓人「はい……」  
 美奈子「(心配で)……」

○街路(昼)

オーロラビジョンに。  
 電気屋のテレビに。  
 あるいは、スマホの動画配信サイトに。  
 卓人の会見映像が中継されている。  
 見る人々。

○東京会議場・会議室(昼)

壇上に卓人と井田。  
 質疑応答に入っている。  
 卓人の手元には原稿がある。  
 舞台袖、見守る美奈子。

美奈子「……」

記者1「あくびについて、非常識だ、という  
 声もありますけど。どうお考えでしょう？」

卓人「……」

が、卓人は、ついに答ええない。

軽く失笑が漏れる会場内。

井田、キリキリ、している。

記者2「麻生さん、なぜ今、こんなタイミン  
 グで、シリアに行かれたんでしょう？」

卓人「……」

井田「(コソコソ)麻生さん……」

記者2「ボランテアを始めたのは1年前と  
 いうことで、所属団体の方は、麻生さんの  
 シリア行き、反対されたそうですね？」

卓人「……」

井田「(痺れ切らし)最終的には、団体の方も  
 承知されていました」

記者2「なぜ、反対があつたにも関わらず、  
 シリアに行かれたんですか？」

卓人「(答えれず)……」

井田「(苛立)麻生さん……!」

美奈子「……」



と、会場内、失笑モードに。

記者3「風俗通いしてたって本当ですか？」

記者4「ご自身で説明もできないんですか？」

と批判的な言葉が飛び交う。

美奈子、舞台袖から顔を出す。

ヘラヘラ笑い、卓人を撮るマスコミ。

記者5「自己責任と言われても仕方ないんじゃないですか？」

美奈子「(睨み)……」

と、隣から人がスツと、壇上に。

それは、ド派手な格好の妙子だ。

信じられないほどの厚化粧。

全く似合っていない。

美奈子「……！お母さん！」

が、壇上に飛び出た妙子。

その存在に、一瞬、ギョツと静まる会場。

井田、ゾツとしていて。

卓人は、無表情に、妙子を見ていて。

と、フラッシュが光った。

妙子「(見て) 本当に、申し訳ございません」

と頭を下げ、顔を上げる。

きらめくほどの笑顔。

フラッシュ、バシヤバシヤ。

美奈子「おかあさん……?!」

記者1「(嘲笑的に)お母様、息子さん、今の

ところ、なにも答えてないですけど」

妙子「(笑い)あの、この子は、昔からシヤイ

なので、人前だと、こううまく話せないよ

うなところがあって……」

と、我慢ならず、美奈子、出てくる。

美奈子「お母さんってば！」

と、今度は、美奈子を撮るマスコミ。

会場後方の山田一平(31)、飛び出て。

美奈子をバシヤバシヤ撮る。

井田「(ゾツとし)すみません、本日は、ここ

で終了します！」

と言ってみるが。

ワヤになっっている会場。

美奈子「……」

## ○麻生家・居間（夜）

美奈子「なんで勝手なことしたのよ！」

食卓には妙子と卓人。

テレビを見ながら弁当を食べている。

テレビから会見の様子、流れる。

妙子、美奈子が登場し、ワヤになる会場。

と、美奈子、テレビを消す。

妙子「ちよつと見てたのに」

とリモコンを取り返そうと。

が、美奈子、そうはさせない。

美奈子「それになに、その化粧。ね？」

と怪訝に妙子の顔を覗き込む。

妙子「やめてって！」

と、卓人を見る美奈子。

卓人、静かに弁当、食ってる。

美奈子「なんで？」

卓人「……」

美奈子「なんでちゃんと喋んなかったの？」

卓人「……ごめん」

妙子「緊張してたんでしょ？ ほら。あんた

も食べて。お腹空いてるからイライラすん

のよ」

美奈子「（卓人に）……なんで行ったの？」

卓人「……。本当、ごめん」

と立ち上がる。

冷蔵庫からワサビを取る。

と、白飯にチュートと大量にかけた。

のを、何食わぬ顔で食う。

妙子は、テレビをつけ。

批判される自身の会見映像に夢中。

美奈子「（ギョツと見て）……」

## ○印刷される新聞

一面記事。

『前代未聞 はちやめちや会見！』

と、どぎつい化粧の妙子の写真。

## ○東京百貨店・化粧品売場（別日・昼）

来る妙子。化粧は、どぎつい。  
 店員「なにかお試しになれますか？」  
 妙子「ラズベリーピンクって派手かしら？」

と楽しそうに口紅を取る。  
 馬田の声「良かったら番組、出てみませんか？」

○麻生家・廊下（回想・夜）

電話に出ている妙子。  
 興奮気味に話している。

妙子「やだ。あの、本当に、馬田さん？」  
 馬田の声「是非、番組にご出演いただけませんか、と思うんですけど。どうですか？」  
 妙子「（ぽーっとなり）……」

○街路（現在・昼）

何気なくスマホを見る人々。

『麻生卓人 クソ』『麻生卓人オワタ』  
 など、あくび画像と共に拡散していく。  
 傍ら、街頭インタビューが行われている。  
 女1「あの無言会見？ 見て。お前、25だろ、みたいなの？」

○同・妙子の部屋（昼）

大量の買い物袋。  
 妙子、ビューラーを。  
 グイッと睫毛をあげる。

○桂木小学校・表（別日・朝）

メディアスクラムを受ける美奈子。  
 記者らを睨みつける。  
 そんな美奈子を見てニヤリしたのは、  
 山田。  
 学校に入る美奈子をしつこく見る。

○J I N テレビ・スタジオ（別日・昼）

どぎつい化粧の妙子。  
目をパチクリ。  
の前には、馬田の姿。

妙子「（見とれ）……………」

馬田「どうぞ、よろしくお願いします」

と手を差し出す。

妙子、その手を握り返す。

妙子「（嬉しくて）……………」

× × ×

馬田「この人に聞けば、今が分かる。本日の

お客様は、麻生卓人さんのお母様、麻生妙

子さんです」

と、スポットライトが妙子に当たる。

妙子「（恍惚として）……………」

○光輝と美奈子のマンション・居間（夜）

光輝がテレビを見ている。

夜のニュース番組。

アナウンサー「シリアで拘束された麻生卓人

さんの母親が、情報番組に出演し、その心

中を語りましたが、その内容に不謹慎だと

批判の声が広まっています」

馬田「会見で思わず、こう飛び出しちゃった

のつて。あれ、どういう心境で……？」

妙子「まあ、あの、母性本能ですかね」

とキラリ笑う。

光輝「（見て）……………」

○麻生家・表（夜）

集まるマスコミ。

笑顔で対応中の妙子。

と、帰ってくる美奈子。

妙子「あ、あんた、おかえり」

と平然とした妙子。

美奈子「（腹が立って）……………」

記者1「お姉さん！ お母様の番組出演につ  
いて、どう思われますか？」

が、美奈子、構わず、妙子へ一直線。  
妙子「妙子につかみかかる。」  
と揉み合う妙子と美奈子。  
を面白がり、撮っているマスコミ。  
の中には山田の姿も。  
山田、執拗に美奈子を撮っている。

○桂木小学校・教室（別日・夕）

沙也と女子たちが、美穂の教科書をごみ箱へ。

美穂「やめて」

沙也「どうせ寝てるじゃん。いらないじゃん」

と、美穂、奮闘するが、沙也はやめない。

と、入ってくる美奈子。

美奈子「ちよつと、沙也ちゃん！」

と止めに入る。

美奈子「なんでこんなことすんの？」

沙也「先生の言うこと聞かなくていいってマ

マ言ってたもん」

と少女らと笑いながら逃げた。

美穂、ごみ箱から教科書を拾っている。

美奈子「（手伝い）……大丈夫？」

美穂「なんで私、いつつもみんなと仲良くな

れないんだろ」

美奈子「……。美穂ちゃんは悪くないよ」

美穂「先生、助けてくれて、ありがとう」

と、ランドセルを背負い、行ってしまう。

美奈子「（残され）……」

○同・多目的室（夕）

30名ほどの保護者。

の前、美奈子と松永。

松永「本っ当に、申し訳ございませんっ！」

美奈子も慌てて下げる。

由美「あのテレビ。会見も。麻生先生は、ど

うご覧になったんですか？」

美奈子「母も、恐らく、混乱して……」

由美「混乱すると化粧して笑うってこと？」  
 保護者1「ネットに麻生先生のこともいつば  
 い出でて。学校名も出てるし。子供たちに  
 なにかあったら、心配なんです！」  
 と口々に、美奈子を責める保護者ら。  
 美奈子「……」

○光輝と美奈子のマンション・居間／台所（夜）

テレビを見ている美奈子。  
 チャンネルを変えて行く。

が、どのニュース番組も、麻生家の話題。  
 妙子の化粧問題、卓人のあくび問題。

美奈子「（ゾツとして）……」

と、帰ってくる光輝。

光輝「（見て）ただいま」

美奈子「最悪だ……」

と麻生家に批判的なテレビを見る。

美奈子「学校、明日からしばらく休めって」

光輝「……。実家じゃなくていいの？」

美奈子「うん……。え、どうしよう。どうし

たらいいかな」

光輝「（分からず）……」

美奈子「お義父さん。なんか言ってた？」

光輝「え？ いや。まあ。いいよ、それは」

美奈子「いいって？」

光輝「いいって、いいだよ」

美奈子「なんか言われた？」

光輝「（語気荒く）だからいいんだって」

美奈子「……。ごめん」

光輝「いや、ごめん……。卓人くんは？」

美奈子「ワサビ、食べてる」

光輝「え？」

美奈子「ダメだよ、このままじゃ。卓人、き

つと、間違ってるもん」

光輝「……」

美奈子「元通りにしなきゃ」

と強い目で光輝を見る。

光輝「……」

と、美奈子、テレビを見る。

コメンテーター1「あまりに非常識だって言

東尾「でもですよ？ なんでもかんでも叩く  
 っていうのはおかしいでしょ？ 僕はね、そう  
 いうバッシングの空気には疑問を感じます」  
 美奈子「（見て）……」

○桂木小学校・3年1組・教室（別日・朝）

榎田 教壇に立つ榎田。

榎田「そういうわけで、麻生先生は体調不良  
 でお休みですので、私が担当します」  
 「えー」とブー垂れる生徒たち。

○喫茶『マロン』・店内（夜）

東尾「一席に、コメンテーターの東尾と美奈子。  
 お気持ち、よく分かります。危惧はし  
 てたんです。こういう状況になるんじゃない  
 いかって」

美奈子「仕事も、しばらく休めって言われて。  
 家に無言電話かかってきたりって、そうい  
 うのも結構あって……」

東尾「深夜に一つ、まあ小さい枠ですけど、  
 番組も持っているの。そこで麻生さんの状  
 況を世論に訴えることはできる。理不尽な  
 バッシングに声をあげられます。ただ……」

美奈子「はい？」  
 東尾「お母様のことですけど……」

美奈子「……」  
 東尾「どう見えるか。悔しくてもそれが全  
 体というところもあるんです」

○麻生家・居間（夜）

瑠衣「妙子が化粧をしている。  
 と、傍らにいた瑠衣は盛り目、盛り目」

妙子「もり：：？」  
 瑠衣「これでもかっけくらい塗る」  
 妙子「は：：：」  
 と感心し、マスカラを塗る。  
 と、帰ってくる美奈子。  
 瑠衣を見て、ギョツとする。  
 瑠衣「あ、先生だ！」  
 妙子「あ、あんた今日、こっちななの？」  
 瑠衣「マンがお化粧教えて欲しいって」  
 美奈子「苛立つ。」  
 ゴミ袋を持って来た。  
 妙子「あ！化粧品を一気に捨てていく。」  
 美奈子「ダメなんだって！」  
 妙子「そんな三流ドラマみたいなことしなく  
 ていいでしょうがよ！」  
 瑠衣「あ、あ、あ、それあたしの！」  
 ともみあう三人。

○同・玄関（夜）

瑠衣がブーツを履いている。  
 美奈子「ごめん、もうこういうの、やめても  
 らっていい？」  
 瑠衣「え？」  
 美奈子「お母さん、ちよつと混乱してて」  
 瑠衣「来いっつたり、来るなっつたりさ」  
 美奈子「：：：」  
 瑠衣「（笑い）冗談ですよ。ま、けどぶっちゃ  
 け？ちよつと気になつてたし。タクちゃ  
 んも会いたかつたけど、いないし帰るか」  
 美奈子「：：：困つてることない？マスコミ  
 とかくるでしょ」  
 瑠衣「と名刺を差し出す。」  
 美奈子「と名刺の匂い、怪訝な表情。  
 ン子「朝の番組とか結構出てる人。バツシ



れるから……」

瑠衣「（笑い）こんなジジイの話、響かないっしょ。先生が出た方がよくない？」

美奈子「……」

瑠衣「自分の身は自分で守るがポリシーだし。てかまず困ってないし。もし困ってたとしたらとしても、なんかこんな石鹸臭いおっさんになんか貸し？ 借りだっけ？ まあどつちにしろ、作りたくないんだよね」

美奈子「……」

瑠衣「ママンとタクちゃんによろしく」

と名刺を返し、出て行く。

美奈子「その名刺を嗅いでみる。」

美奈子「……」

○居酒屋・店内（夜）

酔っ払い客で盛り上がる。

中、テレビ画面。

『バッシングをどう考える？』

東尾「東尾がおっさんゲストと激論交わす。」

東尾「人助けに行った麻生さんを、本人だけでなく、家族にまでね……」

が、店内の酔っ払いの笑い声に、すっかりかき消される。

会見で頭を下げる卓人が映る。

客1「こんなのよ、自分のケツも自分でふけ

ねえ、ぬめぬめ君じゃねーかよ。な？」

客2「マザコンでしょ。変なババアの」

客1「土下座だ土下座！ 大将、カラオケ！」  
とガハハ、盛り上がる。

○光輝と美奈子のマンション・居間（別日・朝）

ノートパソコン前に美奈子。

動画撮影モードにする。

美奈子「（緊張し）……」

と、手元の原稿を見る。

が、考え直し、原稿を脇へ。

と、美奈子、録画ボタンを押す。

美奈子「こんにちは。麻生美奈子と申します。麻生卓人の姉です。一連の騒動について、ここでお詫びとお願いをさせていただきます」

○『ひるどきなう』・番組映像（数日後・昼）

笑顔の女子アナ。の背景、動画の美奈子が映る。女子アナ「シリアで人質事件に巻き込まれ、先日帰国した麻生卓人さんの姉・麻生美奈子さんが、バッシングに対し、動画で声をあげたことで、賞賛の声が広がっています」と、映し出される美奈子の投稿動画。

○街路（昼）

スマホを見ている人。件の美奈子の動画が流れる。

美奈子「弟に至らない点があったことも事実だと思っています。本当に申し訳ございません。ただ、今、私たち家族は、バッシングに遭っています。私は、仕事で、休職処分を受けない言葉を浴びせられています」  
 『だったら本人でこいよ』  
 『またマスゴミが人権侵害か』  
 などコメントがつく。

○道（昼）

ニット帽かぶり、歩く卓人。を追いかけるマスコミ。

美奈子の声「弟に至らない点があったことも事実だと思えます。それでも、弟は人を助けたくて、正しいことがしたくて、シリアに行きました。バッシングは、間違っていると思います」

○オフィスヤマダ・中（昼）

美奈子の動画を見ている山田。  
 ニヤニヤしている。  
 『お姉さん美人じゃね？』  
 『口がエロい』『エロ教師説』  
 など、コメントがつく。

○ 『イマウマ！』・番組映像

美奈子の投稿動画が流れる。  
 美奈子「母のテレビ出演について私たち家族にはなんの相談もありませんでした。息子が人質になり、混乱した母を出演させた番組の判断は正しかったのでしょうか？」  
 ワイプに神妙な面持ちの馬田、コメント「ターの増井、東尾が映る。」  
 美奈子「私たち家族が、元に戻るよう、時間をください。お願いします。」  
 と映像が終わり、スタジオに切り替わる。  
 神妙な面持ちの馬田が現れる。  
 馬田「増井さんはどうご覧になりました？」  
 増井「まあそうですね……」  
 東尾「これは、一つ、警鐘だと思いますよ」  
 馬田「警鐘？」  
 東尾「（ヒートアップし）僕はね、麻生さん、勇気があると思いました。世間はね、叩きすぎです！前から僕、そう言っていました」と強引にCMに切り替わる。

○ 桂木小学校・表（別日・夕）

東尾を先頭に、集まるジジババ。  
 東尾「麻生美奈子さんの不当な休職処分を撤回しろ！」  
 ジジ「そうだよ！」  
 とワイワイ、盛り上がる。

○ 同・廊下（夕）

生徒たちが、東尾らの様子を楽しそうに覗く。

生徒1 「あ、あのおっさん、知ってる！」  
 生徒2 「嫁、グラビアの奴！」  
 樋田 「どうするんすか？」  
 松永 「……」

○同・校門（夕）

生徒の迎えに来る由美と保護者たち。  
 と、ワイワイ抗議デモしている団体。  
 保護者1 「あの、ここに学校なんですけど」  
 保護者2 「東尾が振り向いた。」  
 保護者1 「あ、ヒガテイ……」  
 と明らかに顔色変わる。  
 東尾 「保護者の方ですよね？ 麻生さんの不当な処分について、僕は声をあげるべきだと思ってます」  
 由美 「不当なものも……」  
 保護者1 「いや、私はね、いい先生だって思ってたんです」  
 由美 「え？」  
 保護者1 「そう。でもね、学校側が急に、休職処分だったって、言い出して。ね？」  
 保護者2 「え？ あ、そうなんですよ」  
 とすっかりぽーっとした保護者たち。  
 由美 「（不満気で）……」

○麻生家・居間（別日・昼）

化粧気のない妙子。  
 ボーッとテレビを見ている。  
 ニュース番組。

『麻生美奈子さんに賞賛の声続々』  
 『街頭インタビューの映像。』

女1 「個人的に、ずっと、叩き過ぎだなーっ  
 て思ったので……」  
 と美奈子に好意的な意見ばかり。

妙子 「（見て）……」  
 と、チャンネル変え『イマウマ！』に。

馬田「この人に聞けば、今が分かる。ご登場  
いただきましょう」

と登場したのは、女性タレント。

『涙の不倫会見から1年振りの登場』。  
にこやかに馬田と握手をするタレント。

妙子「(見て)……………」

○桂木小学校・廊下／3年1組・教室(別日・朝)

教室前に来る美奈子。

と、中で子供たちが楽しそうに。

美奈子「(見て微笑み)……………」

とドアを開ける。

生徒1「うわ／＼美奈子先生！」

美奈子「おはよう」

生徒2「せんせい、ずる休みしてたの？」

と口々に美奈子に話しかける生徒たち。

美奈子「はい、座ってー」

と活き活きと教壇に立つ。

○同・校庭／表(夜)

出てくる美奈子。

と、校庭の隅。

ポツ、ポツ、ポツ、と穴がある。

美奈子「(ギョツと見て)……………」

○道／麻生家・表(夜)

歩いてくる美奈子。

記者1の声「麻生さん!!!」

と、前を見る。

記者が押し寄せている。

美奈子、目を閉じ、開ける。

と、実際にはそこには誰もいない。

平穏な麻生家。

フツと息つき、微笑み中に入って行く。

○麻生家・居間(夜)

グツグツとすき焼き。  
美奈子「あ、卓人くん、光輝が囲む。」

卓人「あ、すみません」

美奈子「お母さんは？ ビール飲む？」

妙子「ああ、うん。あの、あんな……」

卓人「ん？」

妙子「あ、あなた、もうシリア、行かないの？」

と、皆、ギョツと動きが止まる。

卓人「……うん。そうだね」

美奈子「ちよつとお母さん、なに言ってるの？」

妙子「だって。ねえ？ 行かなきゃ、みんな、

忘れちゃうじゃない」

とリモコン操作、『イマウマ！』の録画を再生。妙子が出演したシーンが映る。

美奈子「いい加減にしてって！」

とリモコンを取り上げる。

光輝「ちよつと美奈子……」

美奈子「忘れていいの！ 忘れてほしいの、

忘れたいの！」

妙子「そんなの……」

美奈子「なに？」

妙子「……。ううん。そうね。ごめんなさい」

と肉を頬張る。

どこか気まずく食べる卓人を見る光輝。

○同・ベランダ（夜）

タバコを吸っている卓人と、来る光輝。

光輝「1本、もらっている？」

卓人、頷き、タバコを差し出す。

光輝「（吸い）うわー、ニコチン、くるわー」

卓人「なんか……。色々、ごめんなさい」

光輝「……。どんなところだったの？」

卓人「え？」

光輝「結構すごいことですよ。周りにいない

もん。シリア行ったことある奴なんて。土

産話って、まあ呼べる話じゃないからなん

だらうけど。なんか誰も聞かないしさ」

卓人「ホテルカリフォルニア、って知ってます？」

光輝「え？ ああ、曲？」

卓人「見張りが飯、持ってくるんすよ。で、そんな時はこう、手、縛られてて。食う前に歌わされるんすよ。ホテルカリフォルニア」

光輝「え？」

卓人「（軽く歌い）ウエルカムトウオサマズラブリーホテル。オサマの素敵なホテルにようこそ。この地獄から、あなたはもう二度と出られない。帰れないって。替え歌で」

光輝「（ややゾツとして）……」

卓人「俺ね。嬉しかったんすよ。初めて、見張りがそれ歌ったの、聞いた時」

光輝「……」

卓人「中1だったかな。初めてギター買って。で、なんかセットのやつすい教則本みたいなのに楽譜載ってた。初めて練習した曲なんすよ。ソロンとか、結構むずいんすよ。ぱれりぱれりぱれりつつて」

光輝「……」

卓人「なんか、もっと単純な場所で会えたのにな、って……思ってた……」

光輝「行って、価値はあったの？」

卓人「……」

光輝「これだけのことになって。人巻き込んで。それでも、行ってよかったって。美奈子の言うところの、正しいことをしたんだって、そういう実感はあるの？」

卓人「……」

○同・居間（別日・夜）

冷蔵庫を開けて、顔つつこむ卓人。

ワサビをチューブから食ってる。

と、入ってくる美奈子。

その光景にギョツとする。

美奈子「ちよっと……」

と卓人からワサビ取り上げる。

卓人「（生氣なく）あ、ごめん」

美奈子「と薄く笑い、部屋を出る。」

○同・表（別日・朝）

出てくる美奈子。

と、待ち構えている山田。

美奈子「（面食らい）……」

山田「こんにちは」

美奈子「なんですか？」

山田「あ、すみません。あのー僕、こういう者でして……」

と美奈子に名刺を差し出す。

『YAMADA, NET 山田一平』の文字。

美奈子、玄関を気にして、

山田「家に直接来ないで……」

山田「麻生さん、自伝とかどうっすか？」

美奈子「は？」

山田「いや、売れると思うんすよ。今、すー

ごいでしょ。人氣が」

とタブレット端末を見せる。

『麻生美奈子キモい』『死ね』『ビッチ』

と並ぶコメント。

美奈子「……」

山田「そう。人氣はあるけど、嫌われ者って

いうね？ 絶妙なポジション。獲得しちゃ

ってるーわけー」

美奈子「帰ってください。警察呼びますよ？」

山田「このままで終わりとか思ってます？」

美奈子「……」

山田「果てしないんですよ。世界って。そう

簡単に元には戻れませんよ」

とニヤリ笑い、去って行く。

美奈子「……」

○桂木病院・診察室（昼）

医者が妙子の目を診察している。

眼球に光、当てる。

傍らに美奈子。



医者「あー、もうずっと、いいですね」  
 妙子「はい……」  
 となんだか気のない返事。  
 美奈子「（見て）……」

## ○道（昼）

並んで歩く美奈子と妙子。  
 美奈子「じゃ温泉は？」  
 妙子「あたしね、あの、脱いだり着たりが、面倒でね……」  
 美奈子「じゃ、なに？ 軽井沢とか？」  
 妙子「軽井沢って、あんた。なにがあんのよ？」  
 美奈子「なんかあるでしょ、行きたいところ」  
 妙子「いいわよ、そんな気使わなくても」  
 美奈子「……。私、ちゃんと、いるから。お母さんのところに」  
 妙子「……。あんた子供の頃」  
 美奈子「え？」  
 妙子「悩みがある時、お風呂場に来たでしょ」  
 美奈子「（小さく笑い）そうだっけ」  
 妙子「私がお風呂あがったらね、脱衣所の向こうでね。ボソボソって喋りだすのよ」  
 美奈子「あんま覚えてない」  
 妙子「髪の毛こっちは乾かしたいからさ。ドライヤーしようと思うんだけど。あんたボソボソ喋るから。なかなかドライヤーできなくてさ。え？ なに？ って」  
 美奈子「……。おかあさん」  
 妙子「そんなの、もう大昔のことよね」  
 と微笑み、歩いて行く。  
 美奈子「……」

## ○麻生家・居間（夜）

誰もいない中。  
 卓人、来る。  
 戸棚の引き出し、漁る。  
 が、ないらしい。  
 と、美奈子の鞆を見つける。

卓人、財布から札を抜き。  
ニット帽をかぶり、出て行く。

○パチンコ屋（夜）

ポーツと打ってる卓人。  
その目に生氣、ゼロ。

○繁華街（夜）

歩いている卓人。  
と、黒服男が声をかける。  
黒服男「1時間5千円。どうすか？ カワイ  
イ系、遊べる系……」  
卓人「なんか、大味な子、いますか？」

○『いちご学園』・表（夜）

来る卓人と黒服男。  
と、卓人、看板見て、止まる。  
瑠衣「あ、タクちゃん！」  
と弾け出てくる瑠衣。  
と、卓人、踵を返し、歩いて行く。  
瑠衣「ちよつと！！！」

○路地（夜）

歩いている卓人。  
と、ついでくる瑠衣。  
瑠衣「なーんで逃げんの？」  
と卓人を捕まえた。  
卓人「……ごめんね。迷惑かけて」  
瑠衣「落ちていて、良かったよね」  
卓人「……なんで？」  
瑠衣「だって、タクちゃん、可哀想だったし」  
卓人「……」  
瑠衣「ね、なんで逃げんの？」  
卓人「俺、かわいそうじゃないよ」  
瑠衣「え？」  
が、卓人、丁寧に瑠衣の手を放し。

歩いて行く。  
瑠衣「(見て)……」

○桂木小学校・図工室(別日・昼)

絵を描いている生徒たち。

美穂の元に来る沙也。  
沙也「なんでそんな色で塗ってるの？」

空を茶色に塗っている美穂。  
沙也「空って青色なんだよ。見えないの？」

美奈子「沙也ちゃん？自分の席、戻って」  
沙也「美穂の絵に青色の絵の具を塗る。」

美穂「やめて」  
美奈子「沙也ちゃん？」

と、美穂、筆洗を取り沙也に投げつけた。  
美奈子「美穂ちゃん！」

沙也「なにすんのよ！」

美奈子「やめて！やめなさい！」  
と2人を引き離す。

○同・保健室(昼)

体操服を着せられた沙也、ブスツと座る。

美穂と沙也の間に美奈子。

美奈子「(美穂に)なんでバケツ投げたの？」

沙也「いきなり投げてきたんだもん」

美奈子「今、美穂ちゃんに聞いている」

沙也「……」

美奈子「話して？なんで？」

が、美穂は、唇かみしめ押し黙っている。

美奈子「……」

○同・校庭(夕)

来る美奈子。

と、校庭の隅、しゃがみこむ美穂の姿。

美奈子「美穂ちゃん？」

と、美穂、黙々と穴を掘っている。

あの落とし穴事件の時と同じような穴。

ポツポツポツ、と穴が掘られている。

美奈子「(ギョツとして) ……?」

と、ゆるり振り返った美穂。

美穂、我に返ったよう、走って逃げる。

穴は案外に、深い。

美奈子「(覗き込むように見て) ……」

○スーパー・店内(夜)

ぼんやりとレジ待ち美奈子。

店員「1236円です」

と、美奈子、財布を出す。

が、札が空っぽだ。

美奈子「(思い当たる節があるのか) ……」

○麻生家・卓人の部屋(夜)

入ってくる美奈子。

が、卓人はいない。

美奈子「(イヤな予感) ……」

○『いちご学園』・表(夜)

走ってくる美奈子。

○同・受付(夜)

勢いよく飛び込んだ美奈子。

が、明らかに場違い。

黒服男「あれ、面接すか?」

美奈子「あの、瑠衣ちゃんって ……」

黒服男「(怪訝に) 客? なに? 誰?」

美奈子「(ヤキモキして) ……」

と飛び出して行く。

○繁華街を走る美奈子

卓人を探して走る。

と、ドシャン、とごみ箱なぎ倒される。

見ると、クラブ前。

追い出されたらしい卓人の姿。

美奈子「……！」

○麻生家・居間（深夜）

座る卓人。  
と、戸棚の写真。中学生の卓人がギターを背負い、マヌケな顔でこちらを見ている写真。

卓人「（見て）……！」

美奈子、来て、卓人の前に座る。

卓人「金、盗ってごめん」

美奈子「いつまでそうやって悲劇のヒーローごっこしてんのよ！」

卓人「……！」

美奈子「堂々としてなよ。あんたは、間違っていない。正しいことがしたくて……！」

卓人「そうじゃないんだ」

卓人「と、件の写真を美奈子に差し出す。」

美奈子「は？」

卓人「その頃っつか。子供の頃からさ。なんかかんないけど俺の周りには人がいてさ。皆、俺を好きで俺もみんなが好きだった」

美奈子「……！」

卓人「就職して2年くらい。親父が死ぬちょっと前くらい。急に禿げ出したんだよね」

美奈子「は……？」

と、卓人はニット帽をはずす。

卓人「まーモチなくなつて。大学の友達とかも仕事忙しくなりだしてさ。俺の周りから、どんどん人がいなくなつた。なんにも楽しくなくなつて禿げただけで。俺ってなんもねーじゃんって、すげー惨めになった」

美奈子「……！」

卓人「で。ボランテアでもするかって」

美奈子「ちよっと待って」

卓人「俺は、禿げたからシリアに行ったんだ」

美奈子「（絶句）……！」

卓人「不幸な人間が見たかった。ちよっとお

にぎり作ったくらいで、顔しわくちゃにして笑ってくるおばあさんとか。そういう、惨めなもんが見たかった」

美奈子「……」

卓人「でも足りなくなるんだ」

美奈子「……」

卓人「キャンプでちよつと仲良くなった男の子がさ、国境見に行こうって言うんだ。兵士が立ってて、トルコに逃げる奴、ぶつ殺すんだって。俺は、それが見たくて。だから、あそこに行った。俺は捕まって。その子は、目の前で殺された。あれ、ってなつて。俺、何が見たかったんだろって」

美奈子「そんなの……違うよ……ちがう……」

卓人「気付いたんだよ。俺も、多分、母さんも。なんにもない毎日なんて、クソみたいに退屈だつて……」

美奈子「……」

卓人「俺は。禿げたからシリアに行った」

と美奈子の目を見た。

美奈子「……」

○道（翌日・朝）

生気ない目、歩いている卓人。

と、記者が1人すりよつてくる。

記者1「麻生さん。ちよつとお話よろしいですか？」

と、卓人、素直に立ち止まる。

記者1「お姉様が一生命懸命、声をあげてらっしゃいますけど。麻生さんご自身は、なにか発言されなさいんですか？」

卓人「（立ち止まり）……」

○麻生家・居間（朝）

妙子が出演中の『イマウマ』流れる。

ボーッと見ているのは妙子。化粧気はなく、無表情。

○桂木小学校・3年1組・教室（昼）

授業中の美奈子。

どこか、心ここにあらざる感じ。

と、美穂が窓外を見て、

美穂「あ」

美奈子「美穂ちゃん？」

と、生徒たち、「なにあれ」と窓外へ。

怪訝に見る美奈子。

と、窓外、マスコミが集まっている。

美奈子「……！」

記者1「麻生さん！ 弟さんの発言について、

どうお考えですか！？」

美奈子「……！」

とピンと来たか。

飛び出して行く。

生徒1「せんせい？」

○麻生家・居間（昼）

『イマウマ！』放送が終る。

と、巻き戻し。

妙子と馬田が握手を交わす瞬間。

止める妙子。

画面の中、笑顔の妙子。

妙子「（見て）……！」

記者1の声「麻生さん！」

と、妙子、声の方を見る。

カーテンの向こう、フラッシュの光。

妙子「……！」

○動画サイトの映像

道で直撃を受ける卓人。

すっかりカメラを見据え、

卓人「俺は、ハゲたからシリアに行きました。

本当に申し訳ありませんでした」

と真剣に頭を下げる。

記者1の声「え？ どういうことですか？」

と、卓人、歩き出す。

追うカメラ。  
走り出す卓人。

○麻生家・表（昼）

走ってくる美奈子。  
と、溢れるほどのマスコミ。  
にもみくちゃにされる妙子の姿。

美奈子「お母さん：：！」

と、妙子振り返った。

その化粧、これまで以上、ドギつい。  
ド派手なワンピースも似合っていない。

美奈子「（ギョツとし）おかあさん：：：！」

記者1「麻生美奈子さん！ 動画について、

嘘だったと弟さんが告白しましたが：：：！」

と妙子にかまっていたマスコミ。

美奈子をめがけ、押し寄せてくる。

美奈子「お母さん！」

と妙子の方へ。

が、マスコミに挟まれ、近づけない。

ぽつんと、1人の妙子。

と美奈子は目が合った。

妙子「（にっこり微笑み）：：：！」

と背を向け、歩いて行く。

美奈子「お母さん！」

○道（昼）

歩いている妙子。

明らかに頭のおかしいおばさんだ。

を、人は振り返り、笑って見ている。

○J I N テレビ・関係者出入り口（昼）

そしてやってきた妙子。

ずいずい、入って行こうとする。

守衛「（ギョツと見つつ）ちよちよちよ、

関係者の方以外立ち入り禁止だから」

妙子「馬田さん。お話しなきやいけなくて」と、車が到着。



中から馬田が出てくる。  
妙子「(見て) 馬田さん!」

と、馬田、ギョツとする。  
妙子は、もう常人ではない。

妙子「今日、ニュース見たでしょ? 私、色々話できます。なんでも……私の言葉、待ってるんですよ?」

と、駆けつける美奈子。

美奈子「お母さん……」

が、美奈子の声は届かぬ。

馬田「……また、連絡しますから」

妙子「でも……」

と馬田のスーツにしがみつく妙子。

馬田「もういいんだよ!」

と反射的に妙子を振り払った。

馬田「もう元の日常に戻っていいんだよ」

と馬田、ビル内へ。

妙子「でも、私……。戻りたくないんです!」

美奈子「……」

そこへ駆けつけるマスコミ。

と、フラッシュが光る。

妙子「どうも申し訳ございません」

とカメラの方へ。

ボロボロの妙子を撮り続けるマスコミ。

それが嬉しい妙子。

そんな光景。

美奈子「(見て) ……」

○東京精神病院・病室(夕)

拘束ベルトで縛られている妙子。

美奈子「(見て) ……」

○桂木小学校・多目的室(別日・夕)

由美や保護者らの前。

美奈子と松永が座っている。

保護者1「あんな無責任な人、かばって。チャチャラ動画なんか撮って嘘ついて。そ

んな人に、子供を預けられませんか!」

由美「学校急に飛び出したり。そもそも教師としての自覚が足りないと思うんです」  
と口々に同意する保護者ら。

美奈子「(押し黙り)……………」

松永「誠に申し訳ございません！」

と頭を下げる。

松永「麻生先生！」

と、美奈子も、無表情。  
頭を下げた。

○光輝と美奈子の部屋・居間(夜)

ボーツとテレビを見ている美奈子。

『禿げたからシリアへ 前代未聞の理由』  
のテロップ。

コメンテーターら、怒りを露にする。

コメンテーター1「ボラントイアをバカにしてるとしか思えないですよ」

東尾「あのお姉さんも、もうちよつと家族で

話しとくべきでしょ。騙された気分です」

美奈子「(見て)……………」

と、帰ってくる光輝。

テレビを見ている美奈子を見て。

光輝、電源を消す。

美奈子「……………。悔しい」

光輝「うん」

美奈子「……………。うんってなに？」

光輝「卓人くん、連絡とれた？」

美奈子「(首を横に振る)」

光輝「休みとれそうだから一緒、探すよ」

美奈子「(遮り)これまでのこと。全部、ちゃ

んと、世間に伝える。バッシングのせいだ、

どんな目に遭ったか」

光輝「……………。なんで？」

美奈子「だって、おかしいでしょ」

光輝「でも、あれが卓人くんの本当でしょ？」

美奈子「……………」

光輝「俺だって悔しいけどさ。でも、世間に

伝えるとか、そういうんじゃなくて、卓人  
くんとかお母さんのこと考えて……………」

美奈子「それができなくなっただけで言っ  
てん  
の！」

光輝「……」

美奈子「……いいよね、光輝は。いつも  
そうやってさ。自分だけは冷静なんだよ」

光輝「そんな話じゃないでしょ」

美奈子「私が学校の話した時もいつもそう  
じゃない。良い先生だね、とか。そんな毒に  
も薬にもなんないことしか言わないじゃん」

光輝「なんで今そんな……」

美奈子「他人事なんだよ。親も金持ちだし。  
なんか斜に構えてるっていうか。私が一生  
懸命やってることとか全然興味ないんだよ」

光輝「……もういいよ」

美奈子「……風に思うなら。一緒にいたって  
意味ないでしょ」

光輝「……」

美奈子「……」

光輝「……」

美奈子「……」

光輝「……」

美奈子「……」

光輝「……」

美奈子「……」

○東京精神病院・妙子の病室（別日・昼）

ぼんやりと昼食を食べる妙子。

看護師「……と、看護師が取り下げ、薬を置く。」

妙子「……」

看護師「……」

妙子「……」

○桂木小学校・3年1組・教室（昼）

美奈子の代理教師・樋田が算数の授業中。

美穂は、亀を見て口をぱくつかせる。

のを見て、消しゴムを投げつける少女。

美穂、ポカンと口を開け、こちらを見た。

樋田「はい、じゃあこのかけ算。分かる人。」

と、野中、お前口開いてるぞ？」

美穂「……美穂を見て笑う生徒たち。」

美穂「……」

○道（夜）

どこか身を潜め、コンビニの袋を提げ、歩いてくる美奈子。

と、待ち構えていたのはマスコミ。

美奈子「(睨みつけ)……」

ワイワイ質問攻めしてくる記者たち。

記者1「麻生さん！一連の騒動について、説明する気はないんですか？」

記者2「あなたも世間を騙したことについて、どうお考えですか？」

と、美奈子、立ち止まり。

美奈子「卓人は。卓人は、悪くない……」

と、失笑しながら美奈子を撮るマスコミ。

記者1「ハげたからシリアもオツケーだど？」

美奈子「……帰って下さい！帰って！」

とキレた美奈子を。

記者たちは楽しそうに撮る。

記者2「言いたい放題言っつて、都合悪いと逃げてるんですか？」

美奈子、記者たちの勢いに押され。

と、プップーとクラクション音。

車が来て、運転席から山田が顔を出す。

山田「乗って」

美奈子「……」

と、美奈子、躊躇する。

が、車に乗り込む。

○オフィスヤマダ・中(夜)

誰もいない中。

一席に美奈子と山田。

山田「麻生さん、やっぱ自伝書きませんか？」

美奈子「……」

山田「言われっぱなしは悔しいでしょ」

美奈子「なんで私にかまうんですか？」

山田「言ったじゃないすか。僕はね、麻生さ

んの味方です。正しいことがしたい。麻生

さんだって、元に戻りたいでしょ？」

美奈子「……」

山田「あ、それと。これは提案なんですけど」

美奈子「……」

山田「麻生さん、脱いでみませんか？」  
美奈子「は」  
山田、ニヤリと笑う。

## ○街路（夜）

行き交う人。  
何気にスマホを見る人。  
スマホ画面に、美奈子の写真。  
卓人の写真。  
ネットニュース。

『禿げたからシリアに行った、かぼう姉』

『麻生美奈子はクソ』『ただのエロ教師』

『シリアの人間死刑確定』

などサクサクツイートしてみたり。

山田の声「世の中の奴は、バカばかりじゃないですか。皆、自分の退屈な日常の憂さ晴らしに、誰かを叩いている」

## ○オフィスヤマダ・中（夜）

美奈子、山田を睨んでいる。

山田「だったらそれを利用してやるんですよ。麻生さん見たさに本、買った人が、正しいことを知る」

美奈子、山田を睨み、出て行こうと。  
が、山田、美奈子の手を掴む。

山田「元通りの生活に戻りたいんですよ？」

「だったら、そのぐらいの犠牲、払わないと」  
美奈子「……そんなの」

山田「つつても、嫌われて、仕事もない。クソみたいな毎日があるだけでしょ。とりあえず脱いでみて、そしたら世界が変わるかもしれない。刺激があっただいいでしょ？」  
が、美奈子、山田を振り払い、出て行く。  
山田、ニヤリ笑って、美奈子を見ている。

## ○東京精神病院・受付前（夜）

人気がないナースステーション。

## ○同・妙子の病室（夜）

穏やかに眠っている妙子。

の傍らに、美奈子。

と、妙子、目を覚ました。

妙子「……どうしたの？」

美奈子「まだ、戻りたくない？」

妙子「……」

美奈子「お父さん、いなくて寂しかった？」

妙子「え？」

美奈子「1人で、不安だった？」

妙子「寂しい……とか、そんなんじゃない？」

美奈子「……」

妙子「あんた、強がりだって言ってたけどね。

手術の時。私、たとえ、目が見えなくなつ

て1人で家に帰るくらいなんだってないっ

てそう思ったかった」

美奈子「……」

妙子「でもできなかった。そんな自分が、い

やんなった」

美奈子「私、いるよ。お母さんのところに」

妙子「（微笑み）知ってるわよ、そんなこと」

美奈子「じゃあ……」

妙子「誰かにいてほしいって、思い続けるだ

けの人生なんて。退屈そのものよ」

美奈子「……」

## ○道（夜）

歩いている美奈子。

美穂「あ、先生だ」

と、コンビニから出てくる美穂。

おでんを持っている。

美奈子、美穂の顔を見て。

なんだかふつと緊張の糸が切れ。

笑うような、泣くような。

## ○コンビニ・表（夜）

ベンチに並ぶ美奈子と美穂。

美奈子「おでんを食べる美穂。  
美穂「うん。はい」

と、美穂、おでんを差し出す。  
美奈子「微笑み、食った。」

美穂「先生、やめちゃうの？」

美奈子「……。美穂ちゃん。ごめんね」

美穂「なんでやめちゃうの？」

美奈子「負けちゃダメだよ。嫌なことされて、仕返ししなきゃダメ。自分の力で、闘うの」

美穂「なんで、たたかわなきやいけないの？」

美奈子「落とし穴掘って、仕返ししなきゃダメ  
ってこと」

美穂「落とし穴？」

美奈子「気持ちには分かる。でもダメなの。そんなことしたって、なにも変わらない」

美穂「穴は掘ってるけど。落とし穴じゃない」

美奈子「じゃあなんで穴、掘ってるの？」

美穂「(困ったように)なんていうか、穴、掘るのは、私だけの楽しみだから」

美奈子「……」

美穂「スープを全部飲んだ。」

美穂「せんせい。味方してくれてありがとう」

と立ち上がり、とっとこ駆けてく。

美奈子「……」

○麻生家・居間（夜）

電話している美奈子。

コール音が鳴り続ける。

が、留守電に繋がる。

食卓の上、中2の卓人の写真。

美奈子「(見て)……」

○麻生家・居間（回想・朝）

15年前。

麻生家の食卓、朝食の席。

箸を持ったまま寝ている高校生の美奈子。  
の前に茶を置き、からかうように、パン

と手を叩く今より少し若い妙子。  
その前、米にがつつく中学生の卓人。  
ここにこのコーヒーを飲む父・博司。

美奈子「(起きるが機嫌悪い) なに？」

妙子「なになって、あんた寝てたから」

美奈子「朝からよくガツガツ食う卓人を見て、

卓人「姉ちゃん、すぐデブるしね」

美奈子「は？」

妙子「ちよつと、やめなさいって。もう、チ  
ンパンジーじゃないんだから、そんなすぐ  
カツとまらない。ね？」

卓人「(時計見て) あ、俺、行くわ」

と立ち上がり、傍らのギターを持つ。

博司「でも青春だよな。夏休みに、ギター  
持って、ながしで。ながしって知ってるか？」

卓人「じゃ、まあ本当、お世話になりました」

と改まった感じ、一礼する。

妙子「あらやだ、なに、そんな改まって」

と、卓人、ニカつと笑い部屋を出て行く。  
美奈子も立ち上がり、部屋を出る。

妙子「ちよつとあんたはなに？」

美奈子「トイレ！」

○同・玄関(回想・朝)

靴を履いている卓人。

と、トイレから出てくる美奈子。

美奈子「ちちゃんと泊まるところかあんの？」

卓人「んなのつままないじゃん。野宿っしょ」

美奈子「連続殺人犯とかに殺されんじやない  
の？」

卓人「姉ちゃんの発想って。火サスっぽい」

と靴を履き終え、ギター背負った。

美奈子「なにそれ？」

と、電話台の上、使い捨てカメラがある。  
見て、何気なくとる美奈子。

美奈子「ねえ」

卓人「へ？」

と振り向いた、間抜けな顔。



卓人「その瞬間、シャツターを切った美奈子。と言いつつ笑い、出て行った。笑顔で見送る美奈子を、朝日が照らす。その瞬間。」

○元の麻生家・居間（夜）

思い出していた美奈子。  
写真の卓人、マヌケ面だ。  
美奈子、小さく笑い。  
美奈子「……」  
と思立ち、部屋を出た。

○同・表（別日・朝）

出てくる美奈子。  
と、マスコミがチラホラ寄ってくる。  
記者1「麻生さん、弟さんにご連絡は？」  
記者2「謝罪会見など開かれませんか？」  
が、美奈子は、強い意志を持ち。  
それらをかまし、歩いていく。

○瑠衣のマンション・表（朝）

あくびしながら瑠衣がドアを開ける。  
すっぴんだ。  
と、立っていたのは美奈子。  
美奈子「ごめん、寝てた、よね？」  
瑠衣「今、起こされた」  
美奈子「（小さく笑い）」

○同・居間（朝）

菓子パンを食べる瑠衣。  
瑠衣「タクちゃん、来てないよ？ 電話もしたけど、出ないし」  
美奈子「……行きそうなことか、分かる？」  
瑠衣「行きそうなら立ち、戸棚を探る。」

瑠衣「ママンは？ どう？」  
 美奈子「……うん。まだ病院」  
 瑠衣「いやんなっちゃうよね、社会って。あ、  
 あった」

と一枚の年賀はがきを出す。  
 山深い街の風景写真。

美奈子「(見て)……」

瑠衣「ウチ、友達あんまいなくて。年賀状と  
 かもらったことないんだよね。って言った  
 ら、去年、送って来た。だっせーとか思っ  
 たけど、まあ多少、嬉しかったかな。結  
 構、好きだったから、タクちゃんのこと」  
 美奈子「……瑠衣ちゃん。色々ごめんね」  
 瑠衣「え？ なにが？」  
 美奈子「いろいろ」  
 瑠衣「あーなんか謎だけど。了解。とりあえ  
 ず、なんかそこ？ 中学の時、野宿したん  
 だって。友達と」  
 美奈子「(考え)……あん時だ」

○走るレンタカー・車内(夕)

運転する美奈子。  
 傍らに、件の年賀状。  
 写真と同じ風景が、目前に現れる。  
 小さな山小屋がある。  
 美奈子「(見て)……」

○山小屋・表(夕)

人気のない場所にぽつんとある。  
 車から降りてくる美奈子。  
 山小屋のドアを開けてみる。  
 と鍵はかかっておらず、ガランと開いた。

○同・中(夕)

入ってくる美奈子。  
 なにもない。  
 ただの休憩所のような場所。

美奈子「卓人？」  
と声をかけてみる。  
が、人気もなければ、返事もない。

○同・表（夕）

美奈子、小屋から出て来て。  
宛はないが、歩いてみる。

○道（バス停（夕）

歩いてくる美奈子。  
バス停には、老婆が1人、バスを待つ。  
それ以外、人はいない。  
老婆、美奈子をジロっと見た。

美奈子「……」

となんとなく、イヤな感じがして踵返す。

老婆「ちよつと、あんた」

が、美奈子、嫌な予感、振り向かない。  
と、老婆、追って来て、美奈子の前に。

老婆「落とされたよ」

と赤いハンカチを差し出した。

美奈子「（見て）……」

微笑み、バス停に戻る老婆。

美奈子「……」。ありがとうございます」

老婆、軽く微笑み返す。

美奈子、ハンカチを見た。

○レンタカー・車内（夕）

美奈子、乗り込み。

山小屋を一瞥する。

と、何か考え。

車から降りた。

○道（夕）

美奈子の車が走って行く。  
と、逆方向からバスが到着。  
降りて来たのは卓人。

卓人、ふらりと、山小屋の方へ。

○風俗店・受付（別日・夜）

受付男にスマホで卓人の写真を見せる美奈子。

受付男「（訝しげに首を振り）」

美奈子「……そうですか、すみません」

受付男「体入してみる？ 稼げるよ」

美奈子「え？ あ、いや、いいです」

とあしらい、店の外へ。

○同・表（夜）

出てくる美奈子。

辺りの風俗店を見渡し。

定めをつけ、入ろう。

と、視界に現れたのは山田。

美奈子「……」

山田「こんばんは」

とニコリ笑う。

美奈子、反射的に、逃げる。

が、山田も追ってくる。

美奈子、走り出す。

○道（夜）

雨が激しく、降り始める。

走る美奈子。

を、追ってくる山田。

山田「ちよっちよ、逃げないでくださいよ。」

こないだのこと、謝ろうと思っ

たが、美奈子は逃げ続ける。

雑居ビルの前。

むき出しの階段がある。

美奈子、逃げようと、駆け上がる。

が、山田はしつこく追ってくる。

美奈子、止まり、山田を見下ろし、

美奈子「麻生さん、放つといて下さい！」

山田「動画撮らせてください。取

材っす。金は払うんで」

美奈子「(うるさい)……」

山田「弟さん、見つかったんすか？ 探してたんすよね？ 見つかったないんすよね？ 向こうだつて会いたくないんすよ。あんたは悪くないとか善人面してくる偽善者女になんか。もう元になんか戻れないんすよ」

美奈子「……」

山田「このまま黙ってるのはあまりに無責任でしょ？ 禿げたからシリアに行った。そんな弟をかばって嘘ついた。バッシングに浮かれたバカな母親。それが現実でしょ」

美奈子「……」

山田「散々メディア使つといて、都合悪いと黙るんですか？ なんか言った方が……」

美奈子「黙つてようが、なに言おうが……」

山田「え？ なんすか？」

美奈子「(堪え)……。帰って下さい」

山田「……。了解っす」

とニヤリ、笑い、階段を降りる。

が、向き直り。

スマホを取り出し、美奈子を撮る。

美奈子「……」

山田「雨に濡れる、麻生美奈子」

と笑い去ろうとする。

美奈子「(我慢できず)……」

と山田からスマホを取り上げようとつか

みかかる。

と、弾みで。

山田、階段から転げ落ちる。

美奈子「！！」

山田「いつてー！！」

と言いなながら、笑い、美奈子を見上げる。

山田「自分で始めちゃったね」

美奈子「……」

○道々麻生家(夜)

雨降る中、傘もささず来る美奈子。が、家の前にはマスクミがいる。

美奈子「……」  
後ろを向く。

が、どこへ行こうか。

記者1「麻生さん、記者に暴行を加えたのは

美奈子「……」

逃げる。

が、もう走れない。

と、車が来る。

ドアが開く。

運転席の光輝、黙って美奈子を見た。

美奈子「……」

と乗り込む。

記者を押ししのけるよう、走る光輝の車。

○光輝と美奈子のマンション・居間（夜）

入ってくる光輝。

美奈子、続く。

光輝「タオル、もってくる」

美奈子、椅子に座る。

何かを堪えた顔をしている。

と、タオルを持って入ってくる光輝。

美奈子にタオルを。

美奈子、受け取り。

頭からかぶり、顔を隠す。

光輝「（見て）……。風呂わかす」

タオルをかぶったまま、美奈子、首を縦に振る。

光輝、見て、出て行こうと。

美奈子「（顔隠したまま）ありがとう」

と、光輝、小さく微笑み、出て行く。

タオルで顔を隠したまま。

美奈子、泣いている。

その泣き声だけ、聞こえる。

○コンビニ・『ニコニコマート』・店内（夜）

土砂降りの中、駆け込んでくる瑠衣。

瑠衣「ね。これ、ひっくり返らない？」  
 瑠衣「は？」  
 瑠衣「風。これ。うわーってなんない？」  
 店員「いやー。ちよつと分かんないっすね」  
 店員「瑠衣、ムツとしつつ、傘を突き出す。」  
 店員「570円です」  
 瑠衣「千円札を払う。」  
 と、レジ横に『シリア難民支援募金』の募金箱。  
 瑠衣「（見ていて）……」  
 店員「430円、おかえしです」  
 瑠衣「その釣りを、募金箱に入れた。」  
 店員「え？」  
 と怪訝に、募金箱を覗き込む。  
 瑠衣「（我に返り）あ。ありがと」  
 と傘を持ち、外に出ようと。  
 店員「シリアの場所を教えてください」  
 と、スマホに声をかけてる店員。  
 と、店員、瑠衣にスマホを差し出した。  
 まじまじ、見る瑠衣。  
 瑠衣「ふーん……」  
 世界地図の中小さくマークされるシリア。  
 ○オフィスヤマダ・中（夜）  
 パソコン画面。  
 雨に濡れる美奈子がこちらを睨みつける  
 写真。  
 山田が倒れている自撮り写真。  
 『記者を暴行？！』の見出し記事。  
 傍ら、電話している山田。  
 山田「だから、電話して！の教師でしょうがよ。」  
 まだ辞めないでしょ？  
 ぐらいやらないと。禿げシリア、かばって  
 嘘つき、暴行ですよ？  
 と件の記事にコメントがつく。  
 『麻生美奈子 S M ちつく』  
 『暴行はダメっしょ、謝罪しろ』

『会見で土下座しろ』『むしろ胸見せろ』  
とコメントは留まることなく。  
山田、ニヤリ笑っている。

○東京精神病院・テレビルーム（夜）

消灯されている中。  
無音でテレビを見ている妙子。  
色々の色が無表情の妙子を照らす。

○山小屋・中（夜）

激しい雨音がする中。  
毛布にくるまり、カップ麺を食う卓人。  
と、涙が出てくる。  
が、泣きながらも。  
食う。

○光輝と美奈子のマンション・寝室（夜）

ベッドに寝て。  
じつと目を開けている美奈子。  
美奈子「……」

○山道（翌日・早朝）

雨が止み。  
朝日が昇る。  
木々はなぎ倒され。  
姿を変えた山道を、朝日が照らす。

○光輝と美奈子のマンション・居間（朝）

激しく玄関チャイムが鳴る。  
美奈子、寝室から出てくる。  
美奈子「……」

と、ベランダに出る。  
マンション表にズラリ集まるマスコミ。  
と、記者1、美奈子に気付き。  
記者1「麻生さん！ 暴行事件について、会



見開かれるんでしょうか？」

美奈子「……」

と、美奈子のスマホが鳴る。

ビクッとして。

見る美奈子。

『教頭』の表示。

美奈子「……」

○東京精神病院・テレビルーム（朝）

集まっている患者たち。

ふらり、来る妙子。

テレビからニュース映像。

『麻生美奈子さん 今日会見』の文字。

アナウンサー「……暴行を受けた記者は軽傷

で、麻生さんを起訴すつもりはないとしな

がらも、謝罪を求めています。麻生さんは、

現在、休職中ということですが、事態を重

くみた学校側が緊急の会見を行うことを発

表し……」

妙子「（見て）……」

○光輝と美奈子のマンション・居間（昼）

じつと座っている美奈子。

光輝、傍らでヤキモキ、電話をしている。

光輝「つながんない。他の弁護士……」

美奈子「いいよ」

光輝「いやでも、おかしいでしょ。向こうが

勝手に追いかけて写真撮つといてさ」

美奈子「それも全部、言ってくる」

光輝「でも……」

美奈子「行かなきゃまた逃げたって言われる」

光輝「だから……」

美奈子「分かっている。そういうんじゃないっ

て頭では分かっているけど。でも。やっぱお

かしいから。ちゃんと……元に戻りたい」

○山小屋・表（昼）

から出てくる卓人。  
と、木々はなぎ倒され、道がない。  
卓人「(見て)……………」

○桂木小学校・体育館(夕)

教師らが総出。  
椅子を並べ、机を出し。  
会見会場を作っていく。

○同・3年1組・教室(夕)

樋田が帰りの会を行う。  
樋田「そういうわけで、今日は、放課後、学校に残るのはナシ！　な？　みんな家にまっすぐ帰るように」

美穂「生徒たち、ブー垂れる。」

と、生徒ら、美穂を見る。

と、生徒ら、美穂を見る。

が、同意し。

樋田「(大声で)なんで？」と。

残ってる人見たら、先生、明日、宿題、倍

出しまっす」

と、ブータれつつ黙る生徒たち。

○同・教頭室(夕)

向き合う美奈子と松永。

松永「保護者の方も来てますので。今後の進

退についても、言及してください」

美奈子「……」

○同・体育館(夕)

マスコミや保護者が集まっている。

中、やってきたのは山田。

ギプスをはめている。

グイグイ、人をかき分け。

最前列を陣取る。

○同・3年1組・教室（夕）

美奈子「誰もいない空間を見つめる。」

○同・廊下（夕）

背伸びして。

窓外、体育館に向かう人を見ている美穂。

男子1「と、通りかかる男子1。帰んねーの？ 帰んねーと、宿題倍だよ」

美穂「が、男子1も退屈だ。」

美穂の隣に来て。

窓外を覗く。

と、生徒2もやってきて。

窓外を覗く。

○同・体育館（夕）

マスコミや保護者で埋め尽くされた。司会位置に松永。

松永「（一息）今日は、お忙しい中、お集り

いただき、ありがとうございます。ただいま

より、本校の教諭であります。麻生美奈子よ

り、一連の暴行問題に関する、説明及び謝

罪会見を始めさせていただきます」

と、登壇する美奈子。

フラッシュが一斉に光った。

美奈子、深く、一礼、頭を上げた。

バシヤバシヤ、フラッシュが光る。

その合間、好奇の目をした記者。

怒ったような保護者。

そして、にやついている山田。

美奈子「それらをしつかり見た。」

美奈子「この度は、私の軽卒な行動により、

記者の方にお詫び申し上げます」

美奈子「と山田を見る美奈子。と山田に頭を下げる。ごめんなさい」  
 が、山田はニタニタ笑っている。

○東京精神病院・テレビルーム（夕）

妙子「テレビから頭下げる美奈子。  
 ……」

○山小屋・表（夕）

歩き出そうか、戸惑う卓人。  
 明らかに、道が悪い。  
 卓人、山小屋を見る。

○桂木小学校・体育館（夕）

壇上に美奈子。  
 記者1「麻生さん。今後の進退についてはどうお考えですか？」  
 美奈子「：：。私は、続けたいです」  
 保護者1「続けたいですって、そんなこと、よく言えるわね」  
 保護者2「カッとなってキレて突き落とされたんじゃないじゃあない」  
 美奈子「そんなつもりじゃありません：：」  
 保護者2「じゃどんなつもり？ 怪我した人が悪いって言うんですか？」  
 美奈子「同調する会場内。」  
 記者2「麻生さん、今日はなんでもお答えいただけますか？」  
 美奈子「：：」  
 記者2「じゃ、とりあえず、この際だから聞いては、どうお考えなんですか？」

記者2「あれ、お答えでない？ 弟さんのこと、ずっと正しい言い方ってないですか。結果的にあいう風な理由が分かっている、どう思ったんですか？」

記者3「最低だと思いませんか？」

美奈子「（悔しく睨む）……」

とフラッシュがバシヤバシヤ光る。

○山小屋・中（夕）

結果、戻って来た卓人。  
ため息つき、毛布にくるまる。  
と、向こうの隅。  
簡易ベンチの上。  
赤いハンカチがある。  
卓人、近づき、手にとる。  
卓人「（見て）……」  
誰のものか。じつと考える。

○桂木小学校・体育館（夕）

記者3「お母様は、未だ入院中なんですか？」

記者4「マスコミに壊された、と発言されたこともありますが、今でもそう思われますか？」

記者3「そもそも家族関係が破綻していたとは考えられますか？」

美奈子「……」

由美「黙ってないでなんとか言いなさいよ！」

美奈子、前を見る。

由美が、怒っている。

保護者も怒っている。

記者は好奇的だ。

そして山田は笑っている。

そんな面々を見て。

と、入り口が目に入った。

キヤッキヤと押し合いながら、中の様子を覗いている美穂と生徒たち。

笑いながら、押すな押すな、と。

こちらを見ていた。  
と、気付いた樋田が、外に出て。  
樋田「帰れって言っただろ！」

と子供達を追い返す。  
それでも笑って、キャッキヤと駆けて行く子供たち。

美奈子「（思わず笑い）……」

と、怪訝に美奈子を見る記者たち。

記者2「麻生さん。笑ってる場合じゃないですよ？ あなたこういう場で笑うことが、正しいと思ってますか？」

美奈子「正しいことなんか、ここには、ない」とフラッシュが光る。

美奈子、じっと見て。

そして、壇上を一步一步、降りる。

ざわつき見る人たち。

フラッシュが激しく光る。

が、美奈子、恐れない。

一步、一步、出口に向かって。

人々の間を歩いて行く。

山田「逃げるんすか？」

と、美奈子、立ち止まる。

山田「ここで逃げたら、また繰り返すよ。教師もパー。もう一生、元に戻れなくなり

ますよ」

美奈子「元になんか……。戻らなくていい」

○東京精神病院・テレビルーム（夕）

テレビ画面の中の美奈子。  
を見ている妙子。

妙子「……」

○桂木小学校・体育館（夕）

マスコミに囲まれている美奈子。

美奈子「ここで許可ももらって。元になんか

戻らなくても。退屈でも。最低でも。苦し

くても。後悔してても。また歩き出せる力

を、私は信じたい」

とマスコミらを見た。  
 怪訝な顔をしている人。  
 相変わらず、フラッシュも光る。  
 が、美奈子、どこか清々しく。  
 一歩一歩、出口へ向かう。

○同・表（夕）

出てくる美奈子。

と、子供たちが、走って学校の外へ。

美奈子「（微笑み）」

そして、自分も出口を目指す。

後ろからマスコミが追ってくる。

すごい形相の山田も来た。

ワイワイ何かを叫んでいる。

が、いつしかそれは美奈子の背景となり。  
 前へ、前へ、歩いて行く。

○山小屋・表（夕）

出て来た卓人。

ハンカチを後ろポケットへ。

道という道はない。

躊躇していたが、歩き出した卓人。

崖のようなところへ。

と、足を滑らしズルズルと落下、転じた。

卓人「……」

が、立ち上がる。

ただ、生き抜くため、前へ進む。

○東京精神病院・テレビルーム（夕）

会見の様子が流れるテレビ。

妙子「（見て）……」

○同・妙子の部屋（夕）

ぼんやり来て、ベッドに腰を下ろす妙子。

と、看護師が入ってくる。

看護師「麻生さん、お薬の時間だから」

妙子「……」

と、薬を見た。

看護師「はい。すーっと楽になれるから」

と他患者にも薬を配る。

妙子、ちっぽけな薬見て。

フツと笑う。

と、ふらふら、部屋を出る。

看護師「(気付き) ちよつと麻生さん！」

○同・非常出入り口(夕)

勢いよく、飛び出して来た妙子。

と、コソコソ、煙草を吸っている患者1。

ギョツと、妙子を見る。

台風一過、まぶしい太陽が、照らす。

と、視界がぼやけ、目をきつく閉じる。

患者1「大丈夫ですか？ 誰か呼んでくださいまし

ようか？」

と、妙子、目を開け、前を見る。

多分、大丈夫だ。

妙子「1人で、帰れますから」

と、歩き出す。

○道(夕)

歩いている妙子。

ひたすらに、前へ、前へ。

○角を曲がる

と、歩く美奈子の背中が見えた。

その先、もう麻生家が見えてくる。

と、美奈子が立ち止まり、振り返った。

美奈子「(妙子を見て)……」

と、妙子、ギョツと向こうを見た。

と、泥まみれの卓人が、帰って来た。

美奈子も見て、思わず、少し笑う。

卓人も、小さく笑った。

妙子「(見て)……。お腹、すいた」

と笑いながら、玄関の方へ。



美奈子と卓人も、続き。  
美奈子、ドアを閉めた。  
暗転。

○麻生家・居間（半年後・朝）

S・半年後。

朝食を食べる美奈子、卓人、妙子。

妙子「あんた。見た？ あそこのサンデー」

美奈子「なに？ どこ？」

卓人「西中の裏？」

妙子「潰れてた。昨日通ったら」

美奈子「だって野菜とか普通に腐ってたもん」

妙子「でも安かったでしょ？ やっぱ、場所

よ。場所。すぐ潰れるでしょ、あそこ」

卓人「前、なんだっけ？」

美奈子「自転車屋じゃない？」

妙子「ちがうちがう、それもう1個前。自転

車屋の後ね、なんかほら……」

と、皆、気になり出し、考えている。

卓人「お好み焼き屋？」

妙子「それもつと前」

と、卓人、茶碗を持って台所へ。

美奈子「よく、食べるね」

妙子「あ、あんた。冷凍庫のやつからにして？」

卓人「あ、米屋じゃなかった？」

美奈子「それ最初だよ。なんか、生写真とか

売ってたよね？」

妙子「そんなのもう大昔」

卓人「通ってたでしょ、反町の写真買いに」

美奈子「別に通ってないよ」

と食器を片し台所へ、洗い物をする。

美奈子「写真屋のおっさん、変だったよね」

妙子「あの人、たまに見るわよ。駅とかで」

と、台所へ。お茶のお替わりを入れる。

美奈子「え、髪は？」

妙子「長いまま。缶ビールもってね、こう、

項垂れてんのよ」

美奈子「なにしてんだろね」

と、卓人、冷凍ご飯の場所が分からない

か、ガタガタ、冷凍庫を探ってる。  
 妙子「あるでしょ？　そこ？」

卓人「（ハツとして）ドラッグぽこりん」

美奈子・妙子「あー」

と納得し、思い出し笑う。

美奈子「なんにも置いてない店だ」

妙子「あーそれだわ。すつきりしたー」

と妙子、清々しく、食卓へ。

お茶を飲み、窓外を見る。

柔らかな光が刺すと笑顔が漏れた。

その瞬間。

○道（朝）

歩いている美奈子。  
 行きたいところが、ある。

○桂木小学校・表ノ校庭（朝）

歩いて来た美奈子。

校庭で子供たちが遊んでいる姿が見える。

美奈子「……」

と、中に入っていく。

と、校庭の隅。

ポツ、ポツ、ポツ、と穴がある。

穴を掘っている少女の後ろ姿。

美奈子「（見て）……美穂ちゃん」

と、少女、振り向いた。

美穂だ。

と、美穂、ニコッと笑った。

そして、しゃがみ込むと、穴を掘る。

なんの意味も理由もない。

ただ、穴を掘る。掘り続ける。

美奈子「（見て）……」

美奈子、美穂の元へ、歩いて行く。

と、なんだか笑顔がこぼれた。

その瞬間。

（了）